

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	COVID-19 流行下における就業歯科衛生士の感染予防対策とヘルスリテラシーの関連				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	野口 有紀
	研究分担者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	吉田 直樹
		所属・職名	短期大学部・助教	氏名	藤田 美枝子
		所属・職名	東京歯科大学短期大学部・元学長	氏名	石井 拓男
		所属・職名	愛知学院大学短期大学部・学科長 教授	氏名	犬飼 順子
		所属・職名	東京医科歯科大学・教授	氏名	吉田 直美
		所属・職名	愛知学院大学短期大学部・特任教授	氏名	高阪 利美
	発表者	所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	野口 有紀

講演題目	COVID-19 流行下における就業歯科衛生士の感染予防対策とヘルスリテラシーの関連
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>生涯を通じ生活の質を維持・向上するためには、健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するための知識、意欲、能力を持ち、それによって、日常生活におけるヘルスケア、疾病予防、ヘルスプロモーションについて判断し、意思決定する能力であるヘルスリテラシーが重要である。医療職種である歯科衛生士は、科学的な根拠に基づいた医療を患者や対象者に提供することが求められている。2020年3月にWHOは、COVID-19が世界的大流行のパンデミック状態であることの認識を示した。歯科衛生士が行うスケーリング・歯面研磨の業務は、エアロゾル発生が指摘されている。歯科診療で発生するエアロゾル対策として、令和2年8月に日本歯科医師会より、「新たな感染症を踏まえた歯科診療ガイドライン」にて歯科医療機関における感染予防策が示された。これらより、手指衛生、個人用防護具（PPE）、環境消毒、器具・器材の消毒や滅菌、印象材などの消毒に加え、3密の回避や体調管理などの対応を講じることが重要となっている。2020年5月に国際歯科衛生士連盟（IFDH）では、COVID-19流行下において歯科衛生業務に及ぼしている影響について30か国、約10万人に対しアンケート調査を実施したが、わが国は含まれていない。</p> <p>そこで、愛知県歯科衛生士会に所属する歯科衛生士996名を対象に、COVID-19流行下における就業歯科衛生士の感染予防対策とヘルスリテラシーの関連について検証することを本研究の目的とし、郵送法による無記名自己記入式質問紙調査を2022年3月に実施した。調査データ収集後、年齢階層および教育歴、歯科衛生業務の就業年限にグループ分けを行い、調査結果の比較や検討を行っていく予定である。</p> <p>本研究の特徴は、調査研究がされていないCOVID-19流行下における就業歯科衛生士の感染予防対策とヘルスリテラシーの関連について検証をすることにより、歯科衛生士がさらによりよい地域歯科医療の実践をするうえで、新たな知見が示唆され、重要な提言となる可能性がある。</p>